

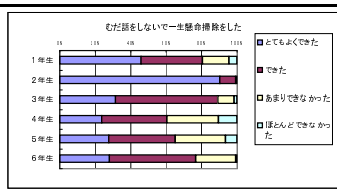
領域	中期経営目標	短期経営目標	到達度	児童アンケートの結果と考察	教職員アンケートの結果と考察	考察
学力の向上	コミュニケーションを通して問題を解決することができるようになったと思う児童の割合を70%にする。	「話し合う授業」を通して、子ども同士の関わりあう力・協力して問題を解決していく力をつけていきたいと考える。したがって、話し合い活動において、よく分かるように話すことができる児童の割合を全学級で70%にする。 最終評価 2	全学級で70%以上に達成することができなかった。	<p>○短期経営目標に達成した学級は、19/24学級であり、6学級が70%以上に達成しなかった。 ○「声が相手に届くように話す」では、ほとんどの学級が70%に達していたが、高学年になるにつれ、「あまりできなかった」「できなかった」と回答した児童が増えている。 ○学年に応じた話し方では、「順序だてて話す」(低学年)は、目標に達成している。「筋道をたてて話す」(中学年)、「考えたことを明確に話す」(高学年)は、目標に達成しない学年があった。</p>	<p>○話し方の指導では、「できた」と回答したのが、60%を切っている。特に中学年がほとんどが「できなかった」と回答している。高学年も「できた」のは、半数であった。 ○学年に応じた話し方では、「できた」と回答したのは、8学級であった。特に中学年は、ほとんどが「できなかった」と回答し、高学年も半数以上が「できなかった」と回答している。 ○話し方の指導で中学年は、「筋道をたてて話す」ために、「スピーチ学習を週3回行う」指導、高学年では「伝えたいことを明確に話す」ために「調べたことを発表しあう学習を毎週1回行う」指導ができていなかったと回答している。</p>	<p>○中間報告では、「話すことができる」が全学級が70%以上に達成しなかった。各学年に具体的方策を徹底するために努力目標を日々実践していくことを後半の取組としたが、今回も全学級70%以上に達成することができなかった。</p> <p>○話し方の基本的な姿勢は、どの学年も80%以上の児童が「できた」と回答し、教職員のアンケートでも約60%が指導できたと回答している。音読や本読みで繰り返し指導したり、「声のものさし」「口の体操」などを教室に掲示したり、日々の指導の成果と考える。</p> <p>○学年の発達段階に応じた「話し方」では、80%以上の児童が「できた」と回答している学年は、国語科で話し方の指導に取り組んだと回答している。一方「できた」と回答した児童が70%台の学年では、学年に応じた「話し方」の指導が、できなかったと回答している。</p> <p>○今回の教職員アンケートでは、学年に応じた話し方の指導ができていなかった結果が出ている。具体的に見てみると低学年は、「ペア学習を一日一回授業に取り入れる」、中学年は、「スピーチ学習を週3回行う」、高学年は、「ふざかしい声で話しているか評価し合う指導を毎日行う」であり、この指導ができていなかったことである。話し合い活動の頻度がどうであったか等、各学年ともなぜできなかったか検討することが次年度の取組につながるかと考える。</p> <p>○中期経営目標で「コミュニケーションを通して問題を解決することができる」児童を増やすという行動は、特に能動的な活動であり思考する力が伴うものである。今後思考力を育成していくことも課題と考える。</p>
		「話し合う授業」を通して、子ども同士の関わりあう力・協力して問題を解決していく力をつけていきたいと考える。したがって、話し合い活動において、能動的に聞くことができる児童の割合を全学級で70%にする。 最終評価 4	全学級で70%以上に達成することができた。	<p>○「相手を見て話を聞く」「相手の言葉に反応しながら聞く」姿勢が、「できた」がどの学年も80%以上となっている。 ○高学年になると「あまりできなかった」が20%近くになっている学年もある。</p>	<p>○聞き方の指導では、「できた」が60%となっている。 ○学年別で見ると低学年はほぼ全学級が「できた」と回答しているが、中学年ではほとんどが「できなかった」と回答している。高学年では、約半数が「できた」と回答しており、発達段階に応じた努力目標の指導に差が出ている。</p>	<p>○どの学年も「話す相手を見て聞く」「相手に反応しながら聞く」ことは、短期経営目標に達成しているが、児童のアンケートで高学年では、前回の中間報告より「できなかった」の割合がやや多くなっている。</p> <p>○低学年では、努力目標をほとんどの学級が、指導できたと回答している。中学年の努力目標「小集団での話し合い活動を毎日一回、学習に取り入れる」や高学年の努力目標「話し合い活動やディベートを取り入れた学習を毎週行う」では、教員アンケートで「できなかった」との回答が多く、児童の回答結果にも「できなかった」の割合が多くなっている。</p> <p>○児童は、能動的に聞く力がついてきているが、高学年になるにつれて話し合い活動が学級で「できない」という結果もあり、話し合い活動の効果的なあり方について今後検討する必要があると考える。</p>
		家庭で週3回以上10分程度読書する児童の割合を全学級で70%にする。 最終評価 2	全学級で70%以上に達成することができなかった。	<p>○短期経営目標に達成した学級は、16/24学級であり、8学級が70%以上に達成しなかった。 ○高学年になるにつれて読書や音読をする児童が減ってきている。 ○保護者アンケートでもどの学年も「家で本を読むようになった」と回答した割合が70%を下回っている。</p>	<p>○「読書カードの活用を週3回以上の指導が70%以上でできた」と回答したのが、70%弱であった。</p>	<p>○前回の中間報告では、「読書」は、短期経営目標をどの学級も70%以上(72%)と達成していたが、今回は全学級70%以上に達成することができなかった。</p> <p>○児童アンケートでは、「家での読書や音読をしない」割合が高学年になって急激に増えており、保護者も「家で本を読まない」と回答しているのが7割に達している。また、教員のアンケートでも読書カードの活用が70%にとどまった。</p> <p>○学校では、読書の時間、読書カードの活用、音読タイムと読書や音読を進めているが、家庭での定着にいたっていないと考える。家庭で児童が読書や音読を進めるためには、学校と家庭との連携が大切である。今後学校と家庭との連携をどのように進めていくかが課題である。</p>

豊かな人間性の育成

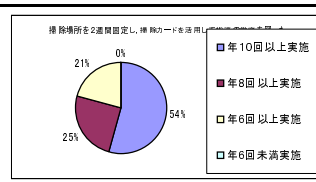
相手のことを思い、協力して活動できる児童の割合を80%にする。

気づく心、思いやりの心は、生活していく上での基本と考える。したがって、全学級で80%の児童が協力して、黙って隅々まできれいに掃除をすることができるようにする。
最終評価 2

全学級で80%以上達成することができなかった。



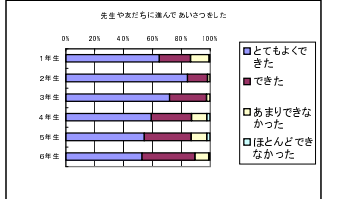
○短期経営目標に達成した学級は、12/24学級であり、半数の学級が70%以上に達成できなかった。
○高学年になるにつれむだ話が増えてきている。



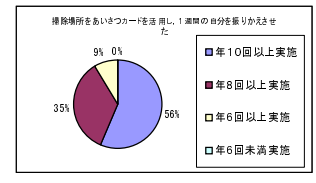
○「掃除カードを活用し、年間8回以上指導した」が、80%以上となっている。

全学級で80%の児童が友だち、教職員、保護者、地域の人、来校者にあいさつができるようになる。
最終評価 2

全学級で80%以上達成することができなかった。



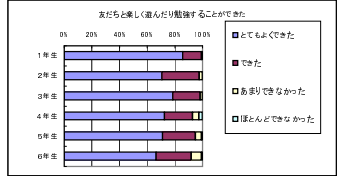
○短期経営目標に達成した学級は、21/24学級であった。
◎保護者アンケートでは、「来校時に子どもがすすんであいさつをする」が70%となっている。



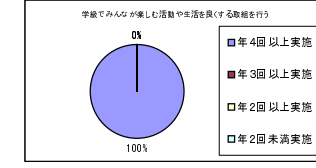
○あいさつカードを活用して年8回以上指導した学級は、21学級となっている。

このクラスになってよかったと思う児童の割合を80%にする。
最終評価 4

学校生活が楽しいと回答した児童が80%以上に達成した。



○全学級とも短期経営目標の80%以上に達した。◎保護者のアンケートでも90%以上が「楽しく登校している」と回答している。



○どの学級も「学級でみんなが楽しむ活動や生活をよくする取組を行っている」。

○前回の中間報告は、全学級が80%以上に達成しなかったため、後半の取組として静かに目標を達成することに取り組んだが、全学級が短期経営目標に達成することができなかった。
○前回の結果をふまえて、掃除時間に静かなオルゴールの曲を流したり、トイレビデオカメラを設定して掃除の指導に取り組んだ。また、教職員のアンケートのように掃除カードの活用をしての取組等を行ったが、結果として効果が得られなかった。
○「掃除のやり方を十分に理解できていない」という学年からの意見もあり、学年当初に掃除の仕方を全校で徹底するなど掃除の指導方法について、学校全体として再度検討することが、次年度にむけての課題である。

○前回の中間報告では、全学級が80%以上に達成しなかったため、各学年毎にあいさつカードや学校全体として生活リズムカレンダーであいさつの指導をすすめていったが、全学級が80%以上に達成することができなかった。
○全学級が80%以上にはならなかったが、あいさつのできている学級は、90%以上を超えており全体的に見るとあいさつの習慣は、ついてきていると考える。
○学年別で見ると1年生と4年生以上に「できなかった」が多く、低学年からのあいさつの指導の徹底と学校生活になじんだ中学年へのあいさつの指導の徹底が大切である。学年ごとにあいさつ指導にとりくんでいるが、まずは、日々教職員が進んであいさつを実践していく等学校全体としての取組も、今後の課題である。

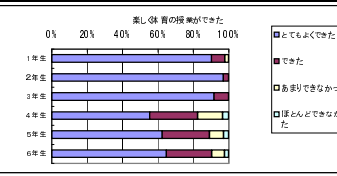
○各学級で「みんなが楽しむ活動や生活をよくする取組」を行ったが、その結果ほとんどの児童が、「友だちと楽しく学校生活を送った」と答え、保護者も「毎日楽しく学校に登校している」と回答している。このことからほとんどの児童が「このクラスになってよかったと思っている」と考える。今後は、「どんな活動が学級生活を楽しく送れるか」について学年会等で情報交換することで一層指導が高まると考える。
○高学年になるにつれて「あまりできなかった」「できなかった」と回答している児童も少なくなっているが、こうした児童への早期の対応も大切と考える。

健全な体づくり

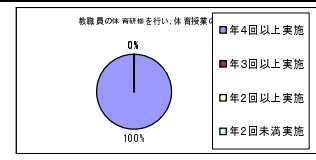
児童の体力向上と生活習慣の確立を図る。

運動に親しむ習慣をつけ、90%以上の児童が体育の授業が楽しいと思うようになった。
最終評価 4

体育の授業が楽しいと思う児童が90%以上に達成した。



○学年によって差はみられるが、学校全体では、90%以上の児童が、「体育の授業が楽しい」と回答した。

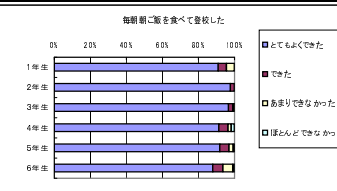


○教職員の体育研修を年4回以上実施することができた。
○研修したことを授業に取り入れる学級も多くあった。

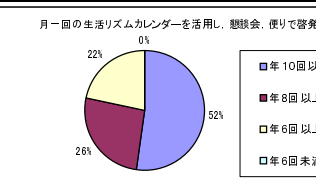
○年度当初考えていた「投力を伸ばす取組」は、諸事情で効果が出るまでの実践ができなかったため短期経営目標を後半より「運動に親しむ習慣をつけ、体育の授業を楽しむ児童」に変更した。
○学年により差はみられたが、全校で見ると90%以上の児童が短期経営目標を達成した。
○職員は体育研修では、授業にすぐに実践できる楽しいボール運動のいくつかを研修し、実践していく学級も多くあった。また、今年度の本校の研究テーマを体育で実践した学年では、授業の中でグループによる話し合い活動を取り入れることで子どもたちの満足度が上がったとの報告もあった。
○本年度の取組を引き継ぎ、「楽しい体育の授業」づくりを実践していくことが大切である。

基本的な生活習慣を身につけ、毎朝朝食を食べる児童の割合を90%にする。
最終評価 4

毎朝朝食を食べる児童が90%以上に達成した。



○学校全体では、90%以上の児童が「毎朝朝食を食べた」と回答した。◎保護者アンケートでも90%以上が「毎日朝食をとって登校している」と回答している。



○年8回以上の生活リズムカレンダーの活用が、80%となっている。

○前回の中間報告では、90%以上に達成することができなかったが、今回は全校で90%以上の児童が「毎朝、朝食を食べる学校に来るようになった」と回答し、保護者も90%以上が「毎朝、朝食をとって登校している」と回答があり、短期経営目標を達成することができた。
○月一回の生活リズムカレンダーで食事や睡眠等の基本的な生活習慣をつけることを学校と家庭で連携し、意識することによって効果がでてきたものと考えられる。学年の取組の中に「これからも声をかけて全員朝食をとり、活力のある一日のスタートができるようにしたい」とあるように家庭との連携を図りながら今後も取り組んでいくことが大切である。

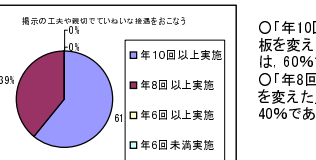
地域連携

地域の方、保護者に学校に親しむ感じをもちたいようにする。

地域の方、保護者の70%が接遇や掲示に満足できるようにする。
最終評価 4

地域や保護者の方が満足する接遇や掲示が70%以上に達成した。

◎保護者アンケートの結果「学校の掲示が工夫されている」との回答がどの学年も80%以上であった。
◎保護者アンケートの結果「来校時、教職員が進んであいさつをする」との回答が、どの学年も80%以上であった。



○「年10回以上掲示板を変えた」の回答は、60%であった。
○「年8回以上掲示板を変えた」の回答は、40%であった。

○ほぼ毎月、掲示板をかえたり、教職員が進んで来校者にあいさつすることで、地域連携の短期経営目標を達成することができた。
○今後もあいさつ、電話での対応など接遇や校内の掲示物の工夫や整備に努めていくことが大切である。